

関西国際空港第1ターミナルビルリノベーションについて

新国内線エリア整備(フェーズ1)を終えて

関西エアポート株式会社

T1 リノベーション部

増田 有佑

1. はじめに

関西国際空港の中核施設である第1旅客ターミナル(T1)において、1994年の開港以来、初となる大規模改修を実施している。国際航空旅客の増加に対応するため、国際線キャパシティの拡大、国際線出発エリアの充実を図り、より早く、より快適にストレスなく手続きできるターミナルを目指している。本事業により、2025年大阪・関西万博に向けてキャパシティを拡大し、お客様に快適な時間をより多く過ごしていただくことを通して旅客体験の向上を図り、日本及び関西の玄関口としての機能強化に貢献したいと考えている。本稿においては、プロジェクトの概要や工事進捗などを紹介する。

2. 関西国際空港(KIX)のこれまで

関西国際空港(図1)は1994年に開港、当初はT1と滑走路1本であったが、2007年には2本目の滑走路の供用を開始、2012年にはLCC専用ターミナルビル(第2ターミナル)の供用を開始している。



図1. 関西国際空港の整備経緯

3. KIX 国際線利用者の推移

開港以来の旅客数の推移は図2のとおりであり、国内線旅客数は500~600万人前後を横ばいに

推移、国際線旅客数は米国同時多発テロや、リーマンショックの影響を受け減少した時期もあったが、2012年以降、訪日観光客特にアジア地域からのお客様を中心として国際線利用者数が増加している(2018年度で2,300万人程度)。

現在はコロナ禍による減便があるものの、復便が進んだ先には旺盛な需要増を期待している。

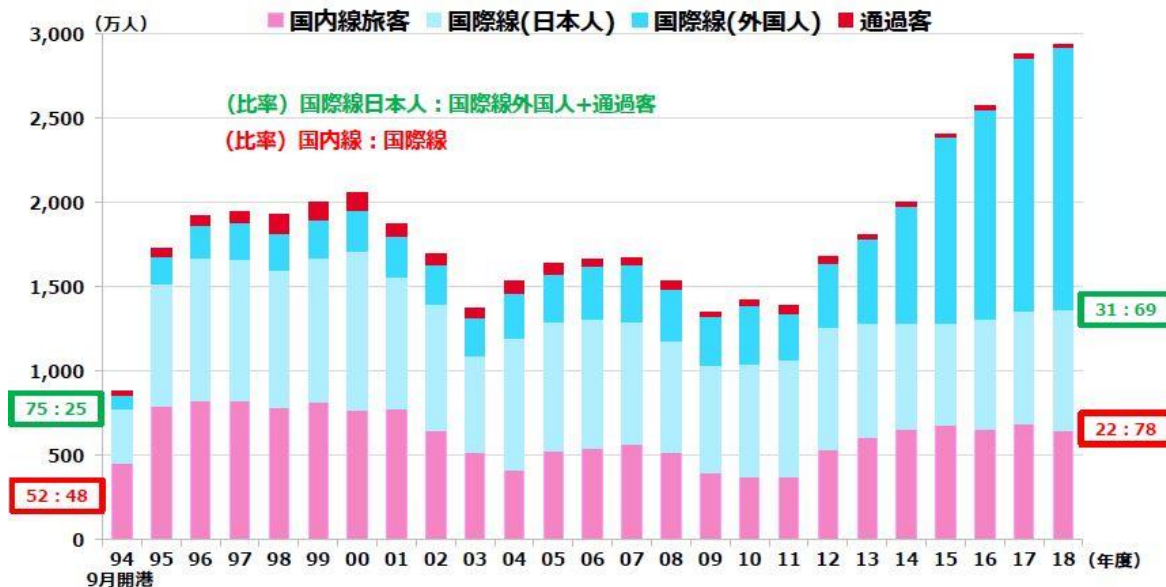


図 2. KIX 旅客数の推移

4. 計画と実績のギャップ

第1ターミナルビルの旅客取扱い能力(以下、キャパシティ)は、国内線1,300万人、国際線1,200万人で計画していたが、国際線は2010年代後半には計画値を越え、2018年度には2,000万人を超える実績となっている(図3)。

第1ターミナルビルの国際線・国内線キャパシティの計画と実績のギャップを解消し、国際線キャパシティを拡大することが課題となっていた。

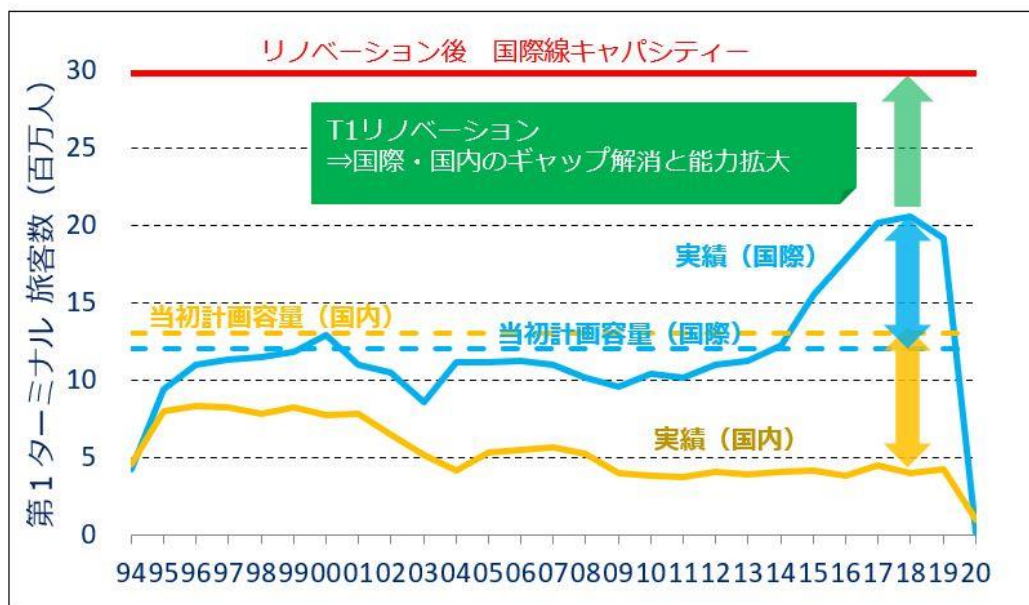


図 3. 旅客数 計画値と実績値

5. 開港以来、初の大規模リノベーション

今後の国際線旅客数の回復、さらなる増加に対応するため開港以来、初の大規模リノベーション工事を進めている。本プロジェクトでは、コンセプトを「国際線キャパシティ拡大」「エアサイドエリアの充実」「旅客体験の向上」に設定した設計をおこなっている(図4)。

国内線と国際線エリアの比率および館内全体の配置を抜本的に見直すことにより、国際線キャパシティを拡大すること、また出発手続時間の短縮により、お客様の利便性向上

と、エアサイドエリアの充実により、今まで以上に空港内で快適に過ごしていただくことを目的としている。

併せて、築後28年経過した設備を更新するとともに、天井、エスカレータ等の耐震補強を行うことにより巨大地震などの災害にも強い空港づくりも同時に進めている。

6. レイアウトの抜本的な見直し

これまででは図5のとおり中央に国内線エリア、それを挟むように南北に国際線エリアが分かれて配置されていたが、国内線エリアを片側(南)に移転させ、国際線エリアを中央に集約することで、国際線エリアの面積とスポット数を増やす計画である(図6)。

基本コンセプト

～KIX Terminal 1の再設計～

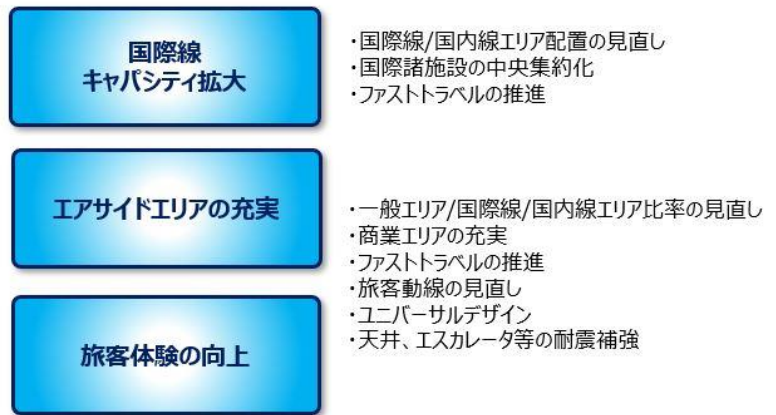


図4. リノベーションのコンセプト

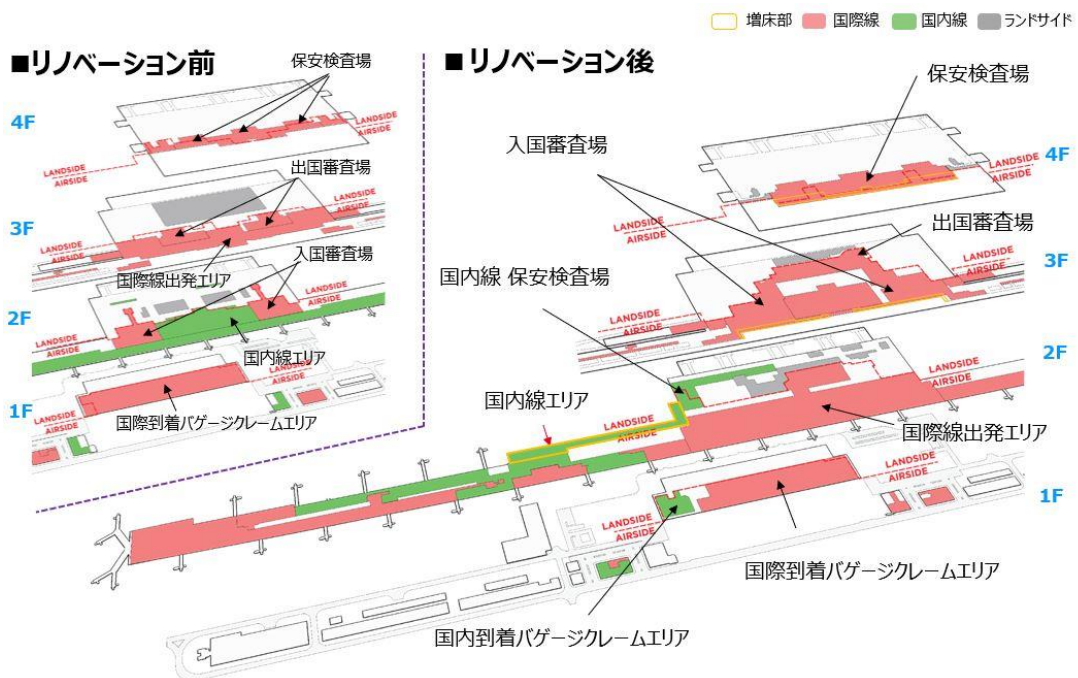
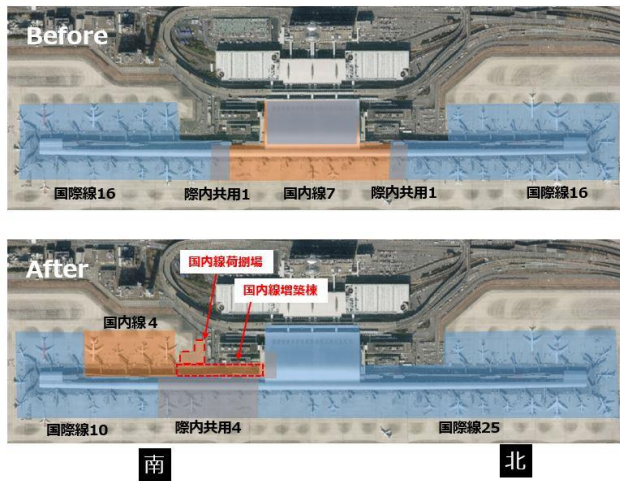


図5. リノベーション前後の際内構成

保安検査場を集約・拡大しスマートレーン導入などと併せて、出発手続き時間の大幅な短縮を図る。出発手続き後には、物販・飲食エリアをより魅力的に改善・増設、ラウンジ・CIQの中央集約によりお客様動線の効率化を図ることなどにより旅客体験の向上を意図している(図7,8)。



国際線
南北一体運用
可能なレイアウト

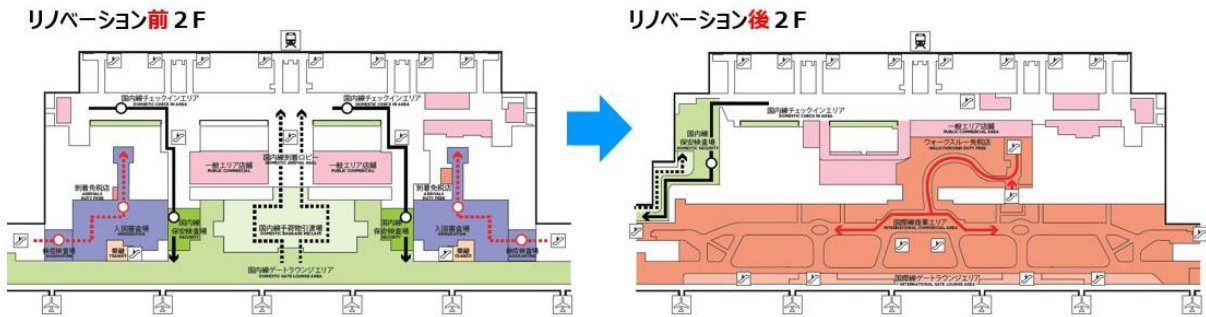
国際線ビル内面積

+ 25%

国際線使用可能スポット

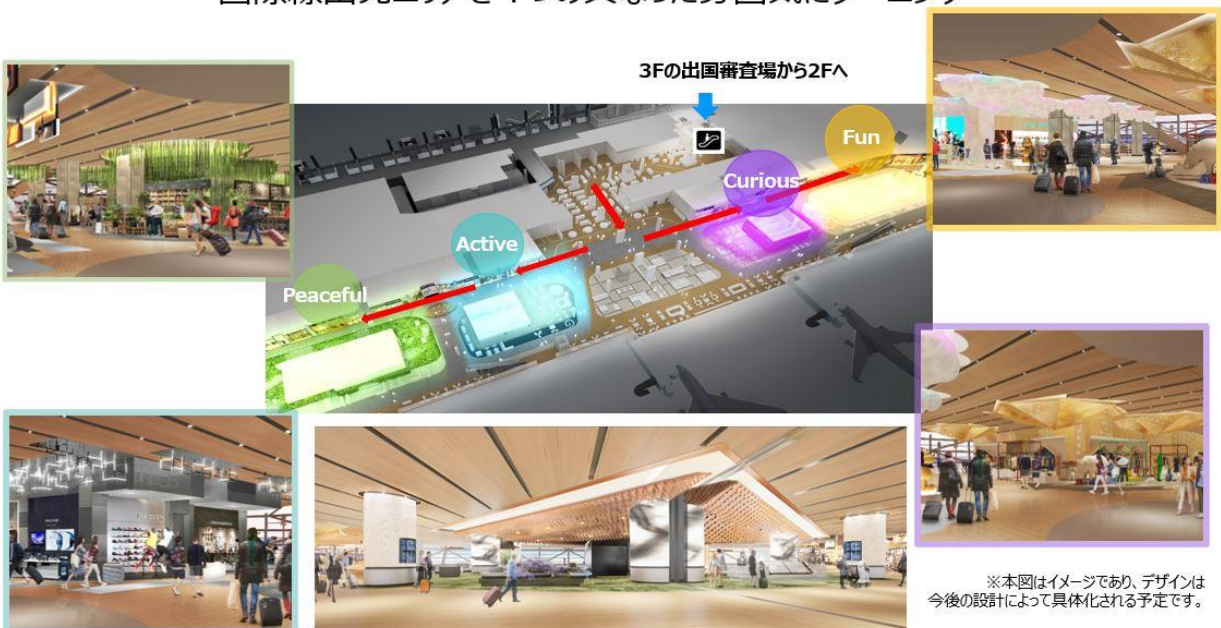
+ 5 スポット
(34 ⇒ 39)

図6. 国際線/国内線エリアの配置見直し



出国後のエリア +60%

国際線出発エリアを4つの異なった雰囲気ゾーンにゾーニング



※本図はイメージであり、デザインは今後の設計によって具体化される予定です。

図7. 国際線出発手続き後のエリア

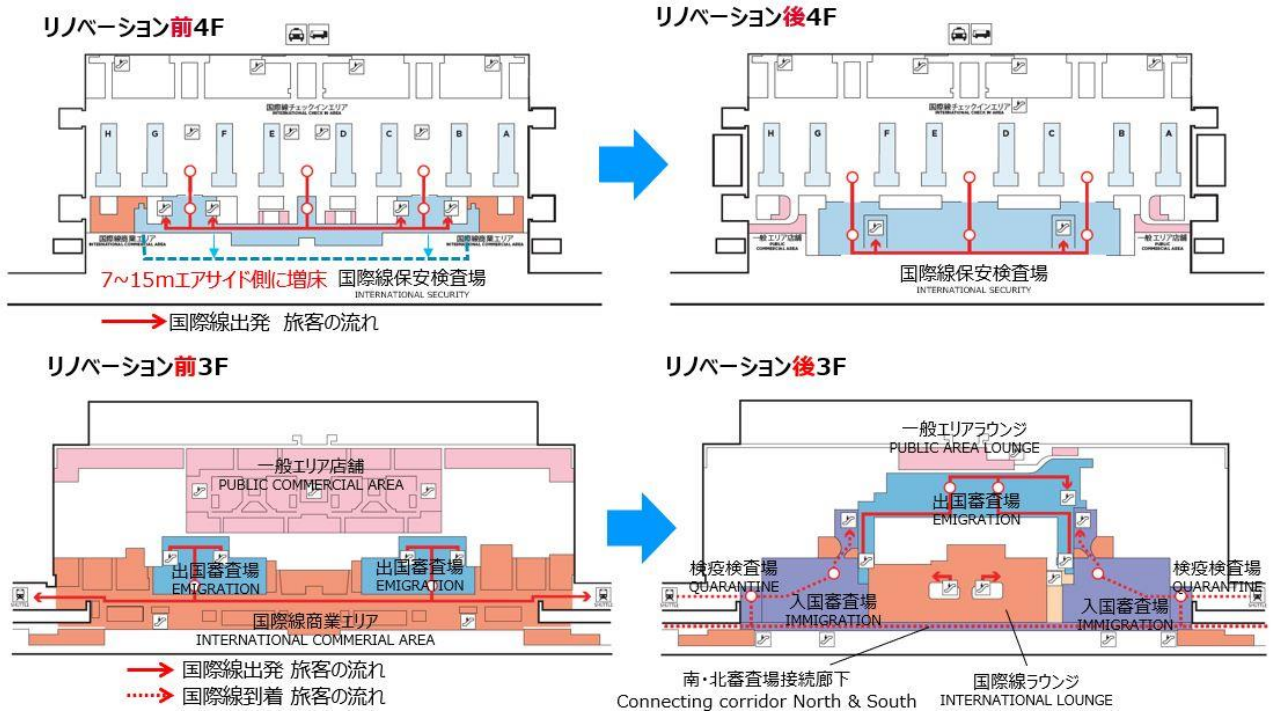


図 8. 国際線保安検査場の集約・拡大/ラウンジ・CIQ の中央集約

7. 2025 年に向けた段階的な整備

工事は 4 つのフェーズに分けて計画している (図 9)。フェーズ 1 は新国内線エリアを整備し機能の移転を実施、フェーズ 2 では旧国内線エリアを新国際線出発エリアに改修。



図 9. リノベーション工事 全体スケジュール

フェーズ3では4階国際線保安検査場エリアの増築、3階国際線ラウンジエリアの新設、新入国審査場の新設をしてCIQ機能が完成し、2025年開催の大阪・関西万博に併せてグランドオープンの予定である。フェーズ4では、新国際線商業エリアの拡張を予定している。最初に新たな国内線エリアをターミナル南側に整備、移転し、移転跡地（旧国内線エリア）を国際線出発エリアに改修すると言った具合に、移転先を整備し、移転、新たな施設整備と順番に玉突きで工事を進めていく計画としている。

2021年5月28日に本格着工し、2022年10月26日には最初の区切りとなる新国内線エリアがオープンした(図10)。



図10 新国内線エリア

8. 今後について

今後は、2023年冬ごろにフェーズ2、2025年春ごろにフェーズ3が完成する予定で、完成後には第2ターミナルを含む関西国際空港全体で年間4,000万人の国際線旅客を受け入れることが可能となる。関係の皆様のご理解、ご協力を賜りながら、本プロジェクトのコンセプト「国際線キャパシティ拡大」、「エアサイドエリアの充実」、「旅客体験の向上」を実現していきたい。